



著者プロフィール

津川絵理子（つがわ・えりこ）

1968年生れ

1991年「南風」入会

鷺谷七菜子、山上樹実雄に師事
句集『和音』『はじまりの樹』

〈句集『夜の水平線』より転載〉

〈2020年12月1日時点〉

『夜の水平線』

（自選15句）

津川絵理子

鏡餅開くや夜の水平線
春近しちららとうごく鳥の舌
立春や腕より長きパンを賣ふ
馬の瞳に映る全身木の芽風
日めくりに透ける次の日花石榴
クレマチス月の表面よく乾き
六月や沼に花散るいはたの木
タクシーが掌へ来る日の盛
夕虹や紙の棺に木の墓標
坊つちやんに清ついてゐる夜の秋
墨痕に漆黒の核夏終る
秋寐や己を掴むロダンの手
星飛んで巨きな墓に王ひとり
木犀や自転車はまだ傷持たず
冬蓄穢満場一致とはしづか